

慶應義塾大学湘南藤沢学会研究助成基金報告書

“オストメイトなび”プロジェクト

—スマートフォンアプリケーション“オストメイトなび”の充実、普及活動—

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 医療マネジメント専修 修士課程2年 神戸翼

1. 活動目的

2014年秋より大学院の同期らと活動を開始し、2015年初夏にリリースしたオストメイト対応トイレ検索アプリ“オストメイトなび”は、オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）にフォーカスしたアプリとしては日本初、地図機能も搭載したオストメイト用アプリとしては世界初となる疾患特異型のアプリである。本活動では、オストメイト患者会、家族会、医療機関や各種団体への訪問、シンポジウムへの参加、メディアへの働きかけを通して、アプリの機能充実と普及を行い、最終的にはオストメイトの社会的認知度向上とオストメイト対応トイレの重要性を発信していくことを目的としている。また、2020年のオリンピック、パラリンピックへ向けて日本のバリアフリーの新たな試みとして発信していく予定である。

2. 活動概要

- 1) オストメイト患者・家族会、支援者らとの交流会、ヒアリング活動、アプリ普及活動
・交流会（2016年2月27日：東京都 参加者：神戸）
※ヒアリング活動（不定期：東京都、神奈川県ほか、参加者：神戸）
- 2) オストメイト対応トイレ実態調査および情報収集活動
①訪問実態調査（2015年7月、12月：長崎県、参加者：宮内）
②電話およびメールによるトイレ情報の収集（2015年7月～2016年3月：全国、実施者：宮内）
- 3) 医療機関、各種団体、関連企業への訪問、ヒアリング活動
①長崎県訪問（2015年7月24日：長崎県庁、同年7月29日：市民団体、2016年2月18日：医療機関訪問、参加者：宮内 ※長崎県庁：県議会議員2名・県職員2名、市民団体：団体員10名、医療機関：3名）
②オストミー協会訪問（2016年1月21日：東京都、参加者：神戸 宮内 ※協会正副会長：3名）
- 4) シンポジウム・学会等の参加及び発表
①ワールド・オストミー・デイ 2015（2015年10月13日：東京都、参加者：神戸）
②ORF 湘南藤沢学会（2015年11月20-21日：東京都、参加者：神戸、金島、浅野）
③第33回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会（2016年2月19-20日：山梨県、参加者：神戸）
④第11回公民館カフェ（2016年3月3日：東京都、参加者：神戸）
⑤日本トイレ大賞（2015年5月26日—7月20日：東京、参加者：神戸）
- 5) メディアへの働きかけ

3. 活動成果報告

- 1) 家族会やブース展示等の機会を通じて活動に関心を示していただいた方を対象に、サポーターとして、パンフレット、カードの送付を行い、普及活動への協力を依頼した。また、当事者や支援者らとの交流会を2月27日に実施した(参加者10名程度)。
- 2) 各種機関や有志により提供された情報を基に、長崎県内の実際にオストメイトトイレ設置箇所まで出向き、正確かつ詳細な情報収集を実施した。また、全国の各自治体へトイレ情報の提供依頼を行い、2015年5月リリース時の登録トイレ数20件から3月6日現在では2,609件まで増やすことが出来た。



写真1:1) 交流会における講演



写真2:1) 交流会におけるWS



写真3:2) トイレ情報登録状況
(17件⇒2609件 (2016.3.6))

3) ①長崎県訪問・オストメイト対応トイレ登録活動

2015年7月、九州地区のうち、行政が把握するオストメイト対応トイレ情報が一般公開されていなかった長崎県に対し、情報の公開を申し立てるために長崎県庁を訪問し、県議会議員および県庁職員と面談を行った。また、長崎市内のオストメイト対応トイレを調査、登録活動を行うと共に、障害福祉支援センターへの訪問、パンフレットの設置依頼、公衆トイレの改修事業等に携わっている市民団体の会議への参加を通して、公衆トイレにおけるオストメイト対応トイレの普及協力を要請した。長崎県が把握して

いるオストメイト対応トイレ情報の提供を受けることができ（およそ 100 件）、市民団体や地元企業との交流をも図ることができた。また、2016 年 2 月に再掲、障害福祉支援センターへのパンフレット設置を行うと共に長崎大学病院にて泌尿器科医師、皮膚排泄ケア認定看護師らと、オストメイトなびの活用についてヒアリング調査を実施し、地方の医療従事者からの助言を得ることができた。



写真 4：3) ①県議会議員との面会 ②オストミー協会訪問
写真 5：3) ①市民団体会議の参加
写真 6：3) ①長崎大学病院訪問

2016 年 1 月 21 日、公益社団法人日本オストミー協会本部へ訪問した。会員数 8,000 人を超える日本最大のオストメイト患者・障害者団体であり、笹岡会長、谷口副会長、川村副会長に面会し、オストメイトなびプロジェクトの進捗報告および今後の協働内容について再確認を行った。引き続き、本プロジェクトを協働にて、進めていくこととなった。

4) シンポジウム、学会参加及び発表

①ワールド・オストミー・デイ (WOD) 2015 への参加・主催協力およびパネリストとしての登壇

2015 年 10 月 13 日に開催された WOD2015 にて、オストメイトの支援団体代表として参加した。オストメイトを取り巻く環境について、今後の日本のあり方を参加者間にてディスカッションを行った。

②ORF 湘南藤沢学会への参加及び発表

2015 年 11 月 20 日、21 日に行われた ORF では、“オストメイトなび”の概要を紹介すると共に、今までの活動報告を中心に、マッピング活動、地方自治体やバリアフリーに関する活動を行っている団体、オストメイト協会支部、医療従事者との交流やヒアリングを通して得られた知見に関して報告を行った。

③日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 (JSSCR) への参加及び発表

2016 年 2 月 19 日、20 日に行われた第 33 回 JSSCR 学術大会にて、オストメイトなびを用いた研究成果を発表した。発表では非常に多くの医療従事者が集まり、新規性と将来性についての活発な議論が行われた。

④第 11 回公民館カフェへの参加及び発表

2016 年 3 月 3 日に行われた国立がん研究センター主催の公民館カフェにて、講演およびワークショップを行った。医療×IT をテーマに、患者目線のアプリのあり方、高齢者でも安心して使える IT ツールについて、様々な意見が提案された。本会を通してオストメイトの認知度向上にも貢献した。



写真 7：4) ①WOD への参加・発表
写真 8：4) ②ORF への参加・発表
写真 9：4) ③JSSCR への参加・発表
写真 10：4) ④公民館カフェへの参加・発表

⑤日本トイレ大賞への応募及び国内トイレ活用優秀事例集への掲載

2015 年 5 月 26 日から 7 月 20 日にて募集・開催された内閣官房主催の日本トイレ大賞にて、国内のトイレ活用の優良事例として取り上げられ、トイレ事例集への掲載に至った。

5) メディアへの働きかけ

2015 年 7 月から 2016 年 3 月頭までに、新聞社 7 社（京都新聞 7/19、朝日新聞 8/9、ヨコハマ経済新聞 9/7、神奈川新聞 2/21、山口新聞 2/29、デーリー東北 2/29、河北新聞 3/6）に掲載され、オストメイトの認知度向上に貢献した。

4. 本活動成果の活用及び今後の活動に向けて

本活動により、オストメイト対応トイレ情報が充実し、また、ヒアリング活動や交流会により様々な視点からの助言を得ることが出来た。本活動成果に関しては ORF、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会等での発表を行ったと共に、交流会や患者会等でその都度発信している。また、メディアを通して、広く社会にも発信ができ始めている。オストメイトの社会的認知度の向上と、一人でも多くのオストメイトらの QOL 向上に寄与できるよう、引き続きアプリの開発、トイレ情報の充実、社会への働きかけを行っていききたい。

5. 謝辞

本プロジェクト遂行にあたり、資金面で援助いただきました湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。